

# 全苗連だより

Vol. 117 (11月号)

令和5年11月6日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

## 第7回全苗連生産者の集い

和歌山で盛大に開催されました

『第7回 全苗連生産者の集い』が9月5日（火）から6日（水）の二日間、和歌山県和歌山市をメイン会場にして盛大に開催されました。開催に当たり、ご尽力いただいた皆様へ感謝申し上げ、その内容を次のとおり報告いたします。

【生産者の集い】（初日の9月5日開催）和歌山県和歌山市にある「和歌山城ホール」に380名が集いました。井内優和歌山県山林種苗協同組合理事長が開会のことばを述べ、主催者を代表して大森茂男全苗連会長による挨拶、岸本周平和歌山県知事並びに尾花正啓和歌山市長の歓迎の挨拶に続き、ご来賓を代表して青山豊久林野庁長官並びに中崎和久全国森林組合連合会理事長から祝辞を受けました。



全苗連生産者の集い開催の様子(和歌山城ホール)



青山豊久林野庁長官の祝辞

表彰式のあとは、講演並びに生産者による状況報告が行われました。

はじめに岡山県農林水産総合センター生物科学研究所植物レドックス制御研究グループ長の小川健一氏から、「山で成長のよい苗づくり」の講演をいただきました。続いて元和歌山

続いて、全国山林苗畑品評会・山林種苗等生産事業功労者・永年勤続常勤役職員の表彰が行われ、42名の方が表彰されました（表彰者名は[別添1]参照）。受賞者を代表して、全国山林苗畑品評会で農林水産大臣賞を受賞された岡山県の多賀正実さんが謝辞を述べました。



中崎和久全国森林組合連合会理事長の祝辞

県林業試験場長の城戸杉生様から、「和歌山県における花粉症対策母樹林整備について」の講演をいただきました。

生産者状況報告では、マルカ林業株式会社山林部課長の浦西大樹さんより発表がありました。そして、講演及び状況報告に対する質疑応答が、和歌山県山林種苗協同組合の井内理事長のもとで育苗技術アドバイザーを務めている谷関俊男さんの進行で行われました。



大森茂男全苗連会長主催者挨拶

併せて会場の大スクリーンに映し出された北海道の紹介映像は、早くも来年の全苗連生産者の集いの機運を盛り上げることとなりました。

最後に、全苗連織田繁実副会長より閉会のことばがあり、第7回全苗連生産者の集いは盛会裏に終了しました。また、同日午後6時から、沢山のご来賓にも出席していただき、「和歌山ダイワロイネットホテル」において情報交換会が開催されました。なお、地元勝浦で水揚げされたマグロの解体ショーも華を添えたところです。

次に、全国の苗木生産者が一堂に会したことを一層有意義なものとし、関係方面に広くアピールしていくために、生産者の集いの決議文を採択することになり、和歌山県山林種苗協同組合瀬古伸一郎副理事長が読み上げ、満場一致で採択されました。〔別添2〕

続いて、次期開催地の北海道への引き継ぎが行われ、全苗連旗が井内優理事長から竹内一秋北海道山林種苗協同組合理事長へ手渡されました。竹内理事長の挨拶と

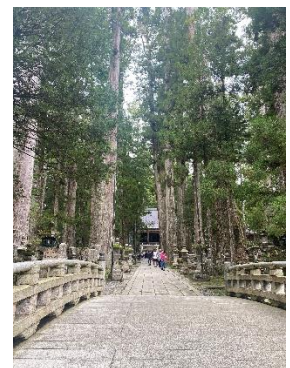


井内優和歌山苗組理事長の開会の挨拶



講演の様子

【全苗連生産者の集い・視察旅行（和歌山県内にて）】翌日は、和歌山県内の種苗生産地研修並びに和歌山県の歴史、景観等に触れ合う視察旅行が3コースに分かれて実施され、和歌山への理解が一層深まる一日となりました。



高野山

[別添 1]

☆令和4年度 全国山林苗木品評会表彰☆

農林水産大臣賞 注1 ; 順不同 注2 : \*コンテナ苗(以下同)

北海道 谷口 淳一\*  
茨城 大森 義之\*  
長野 神戸 直日\*  
愛知 前田 臣代\*  
岡山 多賀 正実、えつ子  
宮崎 森田 文雄

林野庁長官賞

北海道 大野 江二  
岩手 本宮 直人\*  
宮城 佐藤 靖\*  
宮城 栗駒高原森林組合\*  
福島 有限会社 加藤樹苗園\*  
茨城 稲田 満\*  
栃木 落合 省悟\*  
栃木 桜井 進\*  
神奈川 町田 憲司\*  
静岡 渡邊 正章\*  
三重 村井 義明  
和歌山 株式会社 井内屋種苗園 代表取締役 井内 優\*  
広島 古本 啓之\*  
広島 近藤 幸恵、文人  
愛媛 武知 明  
佐賀 江口 登司  
熊本 原田 幸雄  
鹿児島 大隅森林組合\*

全苗連会長賞

岩手 菅野 弘之  
山形 佐藤 尚寿\*  
群馬 松下 好\*  
長野 笹岡 紀美雄\*  
奈良 南裏 勝三  
岡山 岸本 勝\*  
福岡 福岡県樹苗農業協同組合サシスギ部会  
宮崎 西村 浩\*

☆令和5年度 山林種苗等生産事業功労者表彰☆

全苗連会長賞

北海道	安江	耕一
宮城	佐藤	綾子
栃木	高山	文雄
群馬	松岡	洋一
兵庫	池本	博
和歌山	井内	優
山口	静間	和香子
福岡	田代	耕一郎
熊本	高橋	公雄

☆令和5年度 永年勤続常勤役職員表彰(全苗連会長賞)☆

北海道	石田	聡
-----	----	---

[別添 2]

\*\*\*\*\* 全苗連生産者の集い決議 \*\*\*\*\*

## 第7回全苗連生産者の集い決議文

これまで、林業には国民から多くの期待と要請が寄せられてきた。今、特に2つのことが大きな声となって求められている。一つは花粉症対策に取り組むこと。もう一つは伐採後の植林を確実に行うことである。本年は全国的な災害が発生しているため、中山間部の防災の観点からも造林事業（植樹）の重要性は高まっているところである。

全苗連の苗木生産者は、これらの国民からの負託に応えるために全力で取り組むこととしている。

しかしながら、我々を取り巻く状況といえば、物価高、エネルギー価格の高騰が続くことで、苗木生産コストの更なる上昇が危惧され、加えて、人手不足も続くなどの懸念材料が山積している。

このような状況下で、我々、全苗連の苗木生産者は、これまでの経験・実績・技術に基づき、品質の保証された優れた苗木の安定供給に大きな使命を担っているところである。

我々、全苗連の苗木生産者は、本日ここに次の事項の実現について強く要望する。

- 一 主伐の増加に対応する確実な再造林に必要な森林整備予算及び苗木生産予算の拡充
- 一 森林環境譲与税の森林整備への活用が一層推進されるような財源配分の検討と市町村への支援強化
- 一 苗木需給量の見通しの提供並びに苗木の予約生産・販売流通体制の構築
- 一 後継者育成並びに外国人材の円滑な雇用推進の支援
- 一 エリートツリー等の成長に優れた苗木も含めた花粉の少ない苗木等による再造林を促進する仕組みの創設
- 一 苗木生産の元となる種子・穂木の安定供給体制の確立
- 一 コンテナ苗生産に適した品種や優良品種の開発並びにカラマツ用土壌処理型除草剤等の生産技術の開発推進
- 一 調和のとれた苗木生産者組織の育成強化

以上、決議する。

令和5年9月5日

全国山林種苗協同組合連合会

(技術情報)

## 第5回関東地区特定母樹等普及促進会議が開催されました

8月7日(月)から8日(火)に国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターの主催で、第5回関東地区特定母樹等普及促進会議が開催されました。今回の会議は、ヒノキをテーマとしていることから、ヒノキのミニチュア採種園の管理手法の開発に取り組んでいる林野庁補助事業「花粉発生源対策推進事業のうち花粉症対策品種の円滑な生産支援」と共催しました。また、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことから、4年ぶりにオンサイトでの開催となりました。

令和3年度に策定された「みどりの食糧システム戦略」において、エリートツリーの活用が重要業績評価指標(KPI)として位置付けられ、エリートツリー等の成長に優れた苗木の活用について、2030年までに林業用苗木の3割、2050年までに9割以上を目指すことになりました。また林野庁では、間伐等特措法において、特に優良な種苗を生産するための種穂の採取に適する樹木であって、成長に係る特性の特に優れたものを農林水産大臣が「特定母樹」として指定し、その増殖の実施の促進を図ることとされています。

林木育種センターでは、試験地での成長量、剛性、通直性等、スギ、ヒノキの場合は雄花着生性の調査結果を踏まえ、基準を満たすものをエリートツリーとして開発しています。そして、エリートツリーのうち、特定母樹の指定基準を満たす系統については、特定母樹に申請しています。令和4年度末現在、全国ではスギ 646 系統、ヒノキ 311 系統、カラマツ 134 系統、グイマツ4系統、トドマツ 50 系統、計 1,145 系統のエリートツリーが開発されています。また、エリートツリーからの特定母樹の指定数がスギ 164 系統、ヒノキ 58 系統、カラマツ 93 系統、トドマツ 29 系統、計 344 系統となっています(このほか、少花粉スギ品種といったエリートツリー以外の第一世代精英樹等から指定されているものが 148 系統あります)。林木育種センターの申請以外に、秋田県から申請されたスギ 12 系統、千葉県から申請されたスギ2系統、静岡県から申請されたスギ 30 系統、ヒノキ 27 系統、島根県から申請されたスギ5系統、ヒノキ 9系統が特定母樹に指定されています。関東育種基本区ではエリートツリーについてはスギで 158 系統、ヒノキで 42 系統、カラマツで 88 系



写真1 東京都青梅採種園

統開発するとともに、これらの中からスギでは 45 系統、ヒノキでは 17 系統、カラマツでは 72 系統が特定母樹に指定されています。林木育種センターから申請した関東育種基本区のヒノキ特定母樹について試験地の成長データを解析し、これらの特定母樹から生産される特定苗木の改良効果を推定したところ、在来系統と比べて、30年

次の材積が 1.6 倍に向上することが推定されました。

特定母樹や少花粉品種などの優良な系統が植栽されている採種園で生産された種子は、苗木生産者に渡され、苗木が生産されます。現在、ヒノキの採種園では少花粉品種を使ったミニチュア採種園が主体となっています。しかし、ミニチュア採種園における植栽間隔や整枝・剪定及び着花促進処理等、技術開発が途上であり、種子生産が充分ではない状況がみられます。本会議の中では、ヒノキのミニチュア採種園における剪定方法の検討した結果や、着花促進の具体的な方法等について説明がありました。特にカメムシによる種子の吸汁被害は深刻で、被害を受けた種子の発芽率は大幅に低下することが知られています。

東京都では、ヒノキのミニチュア採種園管理の技術開発に積極的に取り組み、安定的に優良種苗を生産・配布してきました。ここでは本会議の現地検討会で見学した青梅採種園にあるヒノキのミニチュア採種園の管理と種子生産の様子について紹介します。特に、充実種子の生産歩留りに直結するカメムシ防除の方法について説明します。また、採種園では、園外からの花粉に受粉すると、遺伝的な改良効果が低下する問題が生じます。そのため、外部花粉の混入を回避することが重要です。東京都で令和4年度に建設した施設内採種園の概要とその取組みについて紹介します。

#### 東京都におけるヒノキミニチュア採種園からの種子生産

東京都では、100 本を1面として、計3面造成し(写真1)、各面3年に1回のローテーションで採種しています。年に1kg の採種を目標に、採種の前年、採種する枝にジベレリンペーストを施用し、着花促進を行います(写真2)。採種木に負担をかけない、また、施用の手間を出来る限り省くことを目的に、雄花と雌花両方の着花促進に最も効果のある時期である8月上旬に1回施用しています。毎年 10 月に入るとすぐに採種を始めます。採種作業には、苗木生産者や当財団の職員が研修で加わり、大変賑やかなイベントとなります(写真3)。また、採種が終わると翌年の3月までに剪定を行います。ヒノキは萌芽力が弱く、一度葉が枯れた箇所には新たな葉がほとんど芽吹かないため、剪定を慎重に行う必要があります。枝には必ず葉を複数残し、葉全体に日光が当たるように均



写真2 ジベレリンペーストによる着花促進

等に枝を残します。また、採種木の上部の方が成長が良いので、下部へ日光が十分当たるよう、円錐形に整えています。

種子採取の中で最も重要なのが、球果を吸汁するカメムシの防除対策です。カメムシによる球果の吸汁は、種子の発芽率に大きく影響を与えるからです(写真4)。その防除対策として効果的なのは、網袋による物理的防除です。4 月頃、雌花が受粉すると雌花がふくらみ、球果へと成長していきます。5 月になると越冬していたカメムシが採種園に現れ、

カメムシは食料となる球果にやってきます。そのため、4 月末から 5 月の初めにかけて、球果のたくさん着いた枝に、1枚ずつ網袋をかけるのです(写真5)。網目が大きい袋や、網目がよれて広がってしまう素材の袋では、孵

化したばかりの1齢幼虫は網目をくぐり抜けて袋の中に入ってしまう。そこで、東京都などでは、様々な素材の袋を設置し、発芽率を比較したところ、サンサンネット(目合い0.8mm ポリエチレン製)などで高い発芽率を得ることができました。現在、袋の耐久性や色による忌避効果について検証を続けています。

【東京都/国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター提供】

### 全苗連・苗組の行事予定

- |           |                                      |
|-----------|--------------------------------------|
| 11月8～9日   | 東海・北陸地区林業用種苗及び緑化木需給連絡協議会(岐阜県)        |
| 11月11～12日 | 全国育樹祭(茨城県)                           |
| 11月16～17日 | 九州地区林業用種苗需給連絡協議会(鹿児島県)               |
| 11月21～22日 | 近畿地区林業用種苗需給連絡協議会(奈良県)                |
| 11月23日    | 農林水産祭(明治神宮会館)                        |
| 11月27日    | 林業薬剤協会臨時総会(学会会館)                     |
| 11月28～29日 | 四国地区林業用種苗需給連絡協議会(香川県)                |
| 12月7日     | 令和5年度第4回全苗連正副会長会議(全苗連事務室)            |
| 12月11日    | 林業種苗生産者講習会テキストの更新委託事業第2回検討委員会(日林協会館) |
| 令和6年      |                                      |
| 1月4日      | 令和6年林業関係団体賀詞交換会(航空会館)(日本林業協会)        |
| 1月18～19日  | 北海道・東北地区林業用種苗需給連絡協議会(宮城県)            |
| 1月(調整中)   | 関東地区林業用種苗需給連絡協議会(千葉県)                |